



検査情報月報12月号 ▶ 概要版 ◀



衛生研究所のInstagram
フォローお願いします！

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。

2025年12月発行

横浜市内のマダニ類調査結果（令和6年度）

▶ ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニがヒトを吸血する際に病原体を媒介することによって起こり、特に近年では急性重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が問題となっています。横浜市では市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行い、市内に生息するマダニ相を把握するとともに、捕獲したマダニ類の SFTS ウイルス遺伝子検査を行っています。

主な結果 ▶ 捕獲されたマダニ類は、**キチマダニ、フタトゲチマダニ、アカコッコマダニ、ヤマトマダニの4種、計460個体**(円海山436個体、富岡総合公園24個体)でした。

▶ 成虫及び若虫の一部について、SFTSウイルス遺伝子検査を行いました。いずれの検体からも**SFTSウイルス遺伝子は検出されません**でした。

食品中の動物用医薬品検査結果（令和7年4月～9月）

▶ 動物用医薬品は動物における疾病の治療及び予防、並びに発育促進を目的として使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

▶ 当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、医療局食品専門監視班が令和7年4月、6月及び9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

主な結果 ▶ 4 月には、牛の筋肉 3 検体、豚の筋肉 3 検体、牛の脂肪 3 検体及び豚の脂肪 3 検体の計 12 検体について、6 月には、ギンザケ 5 検体、ブリ 2 検体、エビ 1 検体及びうなぎ蒲焼 2 検体の計 10 検体について、9 月には、牛の筋肉 2 検体、豚の筋肉 5 検体、鶏の筋肉 1 検体及び豚の脂肪 3 検体の計 11 検体について、検査を行いました。

▶ ブリ 1 検体からオキシテトラサイクリン 0.03ppm を検出しましたが、基準値(0.2ppm)を下回っていました。**その他の検体・項目は全て不検出**でした。

横浜市衛生研究所WEBページ情報（令和7年11月）

▶ 衛生研究所は保健所と連携しながら、科学的・技術的支援機関として、市民生活に密着した健康・安全・安心に関する試験検査や調査研究を実施しています。また、これらの業務で得られた感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事に関連する情報を、WEBページなどで公開しています。

横浜市インフルエンザ流行情報（インフルエンザの最新情報はこちら）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/rinji.html>